



## 平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年11月5日

上場会社名 株式会社 極洋  
コード番号 1301 URL <http://www.kyokuyo.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 誠  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役企画部長 (氏名) 木山 修一

TEL 03-5545-0703

四半期報告書提出予定日 平成30年11月6日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	119,202	△1.0	1,072	△52.3	1,332	△44.4	824	△49.5
30年3月期第2四半期	120,458	9.9	2,246	91.8	2,396	138.5	1,633	37.6

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 1,412百万円 (△26.7%) 30年3月期第2四半期 1,927百万円 (81.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	76.33	72.73
30年3月期第2四半期	155.50	144.15

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	121,834	30,253	24.6
30年3月期	106,297	29,243	27.2

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 29,969百万円 30年3月期 28,889百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	—	—	60.00	60.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	267,000	4.8	4,800	18.0	4,600	3.7	3,200	△0.3	296.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

31年3月期2Q	10,928,283 株	30年3月期	10,928,283 株
31年3月期2Q	109,062 株	30年3月期	144,712 株
31年3月期2Q	10,801,591 株	30年3月期2Q	10,503,343 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、平成30年11月12日に機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P2
(1) 経営成績に関する説明	P2
(2) 財政状態に関する説明	P3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P4
(1) 四半期連結貸借対照表	P4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	P6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P9
(継続企業の前提に関する注記)	P9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P9
(セグメント情報等)	P9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等が続き、緩やかな回復基調で推移しております。

一方、水産・食品業界におきましては、人手不足による労働コスト・物流コストの上昇に加え、世界的な水産物需要の増大による買付コストの上昇など、厳しい状況は続いております。

このような状況のもとで、当社グループは、平成30年4月より新中期経営計画『Change Kyokuyo 2021』（2018年度～2020年度）をスタートさせました。『魚を中心とした総合食品会社として、高収益構造への転換をはかり、資源、環境、労働などの社会的要請を踏まえ、事業のウイングの拡大と時間価値の提供により企業価値の向上を目指す』という基本方針のもと、『ESG重視の事業活動』を通じて『拡大』『強化』『均衡』の各戦略を進めることで、高収益構造へ大きく転換していくことを目指してまいります。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は1,192億2百万円（前年同期比1.0%減）、営業利益は10億72百万円（前年同期比52.3%減）、経常利益は13億32百万円（前年同期比44.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億24百万円（前年同期比49.5%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの変更を行っており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後のセグメント区分に基づいています。詳細は、2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)Ⅱ当第2四半期連結累計期間の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご覧ください。

## (水産商事セグメント)

前期から引き続き、北洋魚・エビなどの国内市況が低迷して苦戦を強いられました。一方、鮭鱒の利益率は改善し、また海外販売においても、サバ・イワシの輸出のほか、米国子会社の現地販売などが伸長しましたが、セグメント全体の収支回復までには至りませんでした。この結果、売上・利益ともに前年同期を下回りました。

水産商事セグメントの売上高は562億21百万円（前年同期比7.4%減）、営業利益は9億57百万円（前年同期比38.1%減）となりました。

## (冷凍食品セグメント)

水産冷凍食品事業では寿司種を中心とした生食用商品及び切身・煮魚などの加熱用商品の拡販に努めました。調理冷凍食品事業ではカニ風味かまぼこの増産体制の構築を進めるとともに、白身フライなど水産フライ類の販売に注力しました。また、家庭用冷凍食品事業では塩釜工場製造のお弁当商品の販売が順調に推移しました。この結果、売上は前年同期を上回りましたが、原料価格や物流費の高騰による利益率低下及び一部売れ行き不振製品の影響等により、利益は前年同期を下回りました。

冷凍食品セグメントの売上高は387億72百万円（前年同期比10.9%増）、営業利益は2億91百万円（前年同期比47.6%減）となりました。

## (常温食品セグメント)

缶詰販売は、サバ缶に対する需要拡大に伴い供給不足が発生いたしました。これに対しイワシ缶などその他水産缶詰の販売に注力したものの、販売を伸ばすことができませんでした。また、珍味製品において、規格変更などのコストアップ対策に取り組んだものの、原料価格の高騰などにより利益率が低下しました。この結果、売上・利益とも前年同期を下回りました。

常温食品セグメントの売上高は93億69百万円（前年同期比0.9%減）、営業利益は1億78百万円（前年同期比19.2%減）となりました。

## (物流サービスセグメント)

入庫貨物の確保を図り、配送事業強化に努めた結果、売上・利益ともに前年同期を上回りました。物流サービスセグメントの売上高は5億15百万円（前年同期比0.9%増）、営業利益は1億36百万円（前年同期比15.9%増）となりました。

## (鯉・鮪セグメント)

加工及び販売事業は、クロマグロなど脂物製品や、マグロタタキ、カツオ加工品の取扱いを伸ばしました。養殖事業は、生育環境の改善に努めるとともに、歩留りの向上に取り組みました。また、前期に初出荷を行った完全養殖クロマグロ「本鮪の極 つなぐ<TUNAGU>」は、その生育状況にあわせた販売を行いました。一方、海外まき網事業は、前年同期と比べ水揚げ数量は上回ったものの、魚価が大幅に下落しました。この結果、売上・利益とも前年同期を下回りました。

鯉・鮪セグメントの売上高は141億27百万円（前年同期比3.6%減）、営業利益は1億50百万円（前年同期比74.1%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ155億37百万円増加し、1,218億34百万円となりました。

流動資産は、受取手形及び売掛金やたな卸資産が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ146億77百万円増加し、958億95百万円となりました。固定資産は、投資その他の資産が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ8億59百万円増加し、259億38百万円となりました。

負債合計は、支払手形及び買掛金や借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ145億26百万円増加し、915億80百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ10億10百万円増加し、302億53百万円となりました。

この結果、自己資本比率は24.6%(前連結会計年度末比2.6ポイント減)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想に関しましては、平成30年5月10日に公表した業績予想から修正は行っておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,046	6,598
受取手形及び売掛金	32,879	38,013
たな卸資産	39,923	49,287
その他	3,382	2,003
貸倒引当金	△13	△8
流動資産合計	81,218	95,895
固定資産		
有形固定資産	15,377	15,502
無形固定資産		
のれん	11	—
その他	486	517
無形固定資産合計	497	517
投資その他の資産		
投資有価証券	5,272	6,296
その他	5,747	5,436
貸倒引当金	△1,816	△1,814
投資その他の資産合計	9,203	9,917
固定資産合計	25,078	25,938
資産合計	106,297	121,834

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,693	11,778
短期借入金	19,384	31,378
コマーシャル・ペーパー	10,000	10,000
1年内償還予定の新株予約権付社債	1,850	1,750
未払法人税等	771	438
引当金	965	962
その他	8,434	8,972
流動負債合計	52,100	65,280
固定負債		
長期借入金	19,800	21,380
引当金	171	152
退職給付に係る負債	4,610	4,463
資産除去債務	54	53
その他	316	250
固定負債合計	24,954	26,300
負債合計	77,054	91,580
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,664	5,664
資本剰余金	1,261	1,308
利益剰余金	22,218	22,527
自己株式	△315	△244
株主資本合計	28,828	29,256
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	928	1,279
繰延ヘッジ損益	△68	198
為替換算調整勘定	200	158
退職給付に係る調整累計額	△999	△924
その他の包括利益累計額合計	60	712
非支配株主持分	353	284
純資産合計	29,243	30,253
負債純資産合計	106,297	121,834

## (2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	120,458	119,202
売上原価	108,165	108,196
売上総利益	12,293	11,006
販売費及び一般管理費	10,046	9,933
営業利益	2,246	1,072
営業外収益		
受取利息	12	14
受取配当金	50	52
持分法による投資利益	78	122
補助金収入	59	123
為替差益	71	51
その他	78	134
営業外収益合計	349	499
営業外費用		
支払利息	205	209
貸倒引当金繰入額	△26	△0
その他	20	31
営業外費用合計	200	240
経常利益	2,396	1,332
特別利益		
固定資産処分益	5	2
投資有価証券売却益	—	0
その他	—	1
特別利益合計	5	4
特別損失		
固定資産処分損	2	3
災害による損失	—	52
和解金	—	152
特別損失合計	2	208
税金等調整前四半期純利益	2,399	1,127
法人税、住民税及び事業税	1,035	371
法人税等調整額	△252	△17
法人税等合計	783	354
四半期純利益	1,615	773
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,633	824
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△17	△51



(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	129	351
繰延ヘッジ損益	△11	266
為替換算調整勘定	94	△54
退職給付に係る調整額	99	74
その他の包括利益合計	311	639
四半期包括利益	1,927	1,412
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,955	1,476
非支配株主に係る四半期包括利益	△27	△63

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,399	1,127
減価償却費	927	909
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△23	△6
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	19	△36
その他の引当金の増減額(△は減少)	98	△7
受取利息及び受取配当金	△62	△66
支払利息	205	209
売上債権の増減額(△は増加)	△9,419	△5,283
その他債権の増減額(△は増加)	41	182
たな卸資産の増減額(△は増加)	△10,140	△9,448
仕入債務の増減額(△は減少)	5,025	1,207
その他債務の増減額(△は減少)	1,536	506
その他	△85	△112
小計	△9,479	△10,819
利息及び配当金の受取額	61	65
利息の支払額	△208	△215
国庫補助金等の受取額	—	1,489
法人税等の支払額	△941	△682
営業活動によるキャッシュ・フロー	△10,567	△10,161
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
固定資産の取得による支出	△661	△964
固定資産の売却による収入	14	2
投資有価証券の取得による支出	△84	△259
投資有価証券の売却による収入	—	0
貸付けによる支出	△2	△9
貸付金の回収による収入	301	28
その他	39	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△394	△1,200
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	14,121	12,126
長期借入れによる収入	1,160	2,000
長期借入金の返済による支出	△393	△450
配当金の支払額	△630	△649
その他	△98	△91
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,160	12,935
現金及び現金同等物に係る換算差額	151	△19
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,350	1,553
現金及び現金同等物の期首残高	2,572	4,977
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,922	6,530

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	水産商事	冷凍食品	常温食品	物流 サービス	鰹・鮪	その他	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益及び 包括利益計 算書計上額 (注2)
売上高									
外部顧客への売上高	60,714	34,946	9,455	510	14,648	182	120,458	—	120,458
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,447	1,871	133	822	949	620	16,845	△16,845	—
計	73,162	36,817	9,589	1,333	15,598	802	137,303	△16,845	120,458
セグメント利益又は 損失(△)	1,545	555	220	117	581	△57	2,963	△716	2,246

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額716百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用761百万円が含まれております。全社費用は、主に親会社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	水産商事	冷凍食品	常温食品	物流 サービス	鯉・鮪	その他	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益及び 包括利益計 算書計上額 (注2)
売上高									
外部顧客への売上高	56,221	38,772	9,369	515	14,127	195	119,202	—	119,202
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15,713	2,562	111	860	1,606	617	21,473	△21,473	—
計	71,935	41,334	9,481	1,376	15,733	813	140,675	△21,473	119,202
セグメント利益又は 損失(△)	957	291	178	136	150	△71	1,642	△569	1,072

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額569百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用632百万円が含まれております。全社費用は、主に親会社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループ内の管理区分を見直したことに伴い、従来「水産商事」に属しておりました(株)エィペックス・キョクヨーを「冷凍食品」の区分に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。